

令和6年度神戸大学前期日程 入試問題『出題の意図・評価ポイント』

国語

- ※1 この『出題の意図・評価ポイント』についての質問、照会には一切回答しません。
- ※2 配点（素点）は入試問題に記載してあります。
なお、本学入学者選抜のための教科・科目ごとの配点については、令和6年度神戸大学学生募集要項を参照してください。

【出題の意図・評価ポイント】

一（現代文）

学力の三要素のうち「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価するために、四〇〇〇字を超える長文評論の内容理解について記述式で解答する読解問題を出題した。

問一・問二・問三

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多角的に試す記述式問題。それぞれの傍線部の意味を正確に理解するには、まず語彙にかんする一定水準の知識が欠かせない。また、たんに傍線部の前後だけを手掛かりにするのではなく、より広い文脈に即して論理展開をたどりながら、傍線部の意味内容を捉える思考力と判断力も必要となる。問一と問二では、二つの概念の因果関係を逆向きに捉える論理が仕組まれていることを理解する必要がある。また問三では、比喩表現により意味されることの解釈が求められる。解答に盛り込むべき内容を八〇字という制限字数内にまとめる技能、適切な語彙を用いて説得力のある文章へと練り上げる表現力を、総合的に評価することを狙いとする。

問四

基本的には前問と同じ趣旨の設問だが、本文全体の論旨をふまえて解答をまとめることを求める点で、より高度な読解力・表現力を試すことが意図されている。制限字数は一六〇字と長いため、答案をワンセンテンスで作成することは求めている。傍線部が直接に意味するところを汲みながら、前半にまでさかのぼって本文全体の論理の筋道を正確に読み取るという、論理的な思考力がここでは何よりも求められる。論点をただ列挙するだけでは十分ではなく、それを論理的に構成し論述する表現力も必要となる。前の三問で求められていた以上に高度な「思考力・判断力・表現力」を総合的に判定することがこの設問の狙いであり、評価のポイントもそこにある。

問五

標準的な漢字の書き取りを課すことで、日本語の語彙にかんする「知識・技能」を試す問題。はっきりと、くずさないで書くこと。ただしいずれも本文の文脈に即する必要がある、その意味で間接的に「思考力・判断力・表現力」を試す設問である。

二（古文）

問一 基本的な古典文法の知識を確認した。

問二 いずれも基本的で古典表記として多く用いられる言葉の知識を主に、文脈の意味が理解されているかについて確認した。

問三 基礎的な反語の構文を理解しているかどうか、また、傍線部以前の内容を的確に要約できているかどうかを確認した。

問四 傍線部の「ひがごと」の意味および、傍線部以前の内容を的確に把握し、説明できているかについて確認した。

問五 傍線部以前の内容を的確に把握し、冒頭の和歌について、「実際に二人は逢っているが、その逢瀬があまりに短く、まるで逢わなかったかのように感じられたとことを、逢っていないと表現した」と筆者が解釈したことが理解できているかどうかを確認した。

問六 基本的な文学史の知識を確認した。

三（漢文）

問一

①②③ 漢文のなかの「已」「為人」「蓋」の読みを正しく理解できているかを問うた。

問二

（ア）「可以」の用方を理解し、正しく読み下せるかどうかを問うた。

（イ）「未」の用法を理解し、再読文字として正しく読み下せるかどうかを問うた。

問三 傍線部の文意を正しく理解した上で、的確な現代日本語に訳せているかを問うた。

問四 問題文全体の流れを正しく踏まえながら、的確な日本語で説明できるかを問うた。